

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

ウイルス除去と称されている製品の誤飲による中毒  
(No. 40 ウイルス除去と称されている製品の誤飲による中毒の類似事例1)

事 例	年齢：1歳3か月 性別：男 体重：10.6kg 身長：75cm	
傷害の種類	誤飲	
原因対象物	市販のウイルス除去剤	
臨床診断名	メトヘモグロビン血症	
医 療 費	130,440 円	
発 生 状 況	発生年月 日・時刻	2014年1月12日 午前10時過ぎ
	発生時の 詳しい様子 と経緯	10時頃、母がウイルス除去を目的に市販剤を指示どおりに作成した（液体と粉末を混ぜるタイプ）。作成後、部屋の棚の上に置いて立ち去った。その数分後に本児の姉に呼ばれて駆けつけると、本児は脚台を登り、製剤を食べていた。その数分後より嘔吐が出現したため救急を要請した。
治療経過と予後	<p>救急隊が接触した時点ではバイタルサインは保たれ、本児の機嫌も良好であったが、徐々に全身状態が悪化した。来院時は軽度の意識レベルの低下を認め（グラスゴー昏睡尺度は15点中13点）、SpO<sub>2</sub>は89%まで低下したが、酸素投与を開始したところSpO<sub>2</sub>94%（マスク5L）まで改善した。来院後は嘔吐はなく経過した。経過中、SpO<sub>2</sub>の低下以外に呼吸状態の悪化はなく、意識状態も増悪傾向はみられなかった。既往歴に特記事項はなく、二酸化塩素含有製剤の誤飲と、血中メトヘモグロビン（MetHb）飽和度の上昇から、来院後約1時間で、ウイルス除去剤の誤飲に続発したメトヘモグロビン血症と診断した。</p> <p>酸素投与のみで酸素化は保たれており、MetHb飽和度（正常：1-2%）は来院時が最高値の8.3%であり、症状も速やかに改善したためメチレンブルー投与の適応はないと考えた。観察が必要と考えて入院とした。入院後は酸素投与量を漸減し、入院2日目には酸素投与を中止した。呼吸状態・全身状態も普段通りに戻っており、MetHb飽和度も正常化したため退院とした。退院後は後遺症なく、元気に生活している。</p>	